

ハンブルク・アルスター湖。左からヤコビ教会、ペトリ教会、カタリーナ教会、市庁舎、ニコライ教会



Atsuko Kudo Mail Magazine 192

2013.03.01

●路傍伝道、悔い改め

お元気でいらっしゃいますか？

前号でお知らせしました湿疹とそれに伴う全身のかゆみは、随分良くなりました。湿疹に伴い、2月は、諸検査のため病院通いが続きましたが、結果はすべて良好でした。また肩、首の状態も順調に回復に向かっています。皆さんのお祈りに心から感謝しています。

最初に大切なお知らせがあります。賛美セミナーの準備に、もっとまとまった時間が必要であることが分かり、春には日本へは行かず、9月上旬まで欧州に留まって、学びに集中することにいたしました。すでに何人かの方からセミナー、レッスンのお問い合わせをいただいておりますが、どうか秋までお待ちください。秋の予定は、7月末までに、HPを通して皆様にお知らせするようにしたいと思います。主がこの者の霊の目を開いてくださり、御霊の導きの中で準備を積み重ねて行くことが出来ますよう、強力なお祈りをお願いいたします。

●路傍伝道

2月は通院で外出する日が続きました。今回気付いたのは、地下鉄に乗っても、町中を歩いても、「もの乞い」をする人が非常に増えたことです。一見豊かなドイツ、信じられないかもしれませんが、5人にひとりが貧困層という現実があります。そして、ホームレス、もの乞いをする人たちの数は、今、日を追って増加しているそうです。



もの乞いの人たちがお金を求めて近寄って来た時、私は普通「Nein (No)」と言って断ります。ドイツには、そのような人たちの援助する機関やセンターがあるからです。また、実際にはドラッグやアルコールのためにもの乞いをしている人も多いのです。

ところがある夕方、通勤帰りの人でごった返していた中央駅の切符販売機で、バックから財布を出し、切符を買い終わった時、横にいた若い男性が、「切符を買いたいのですが」、と話しかけて来ました。最初、販売機の使い方を尋ねて来たのだと思いました。

ドイツの切符販売機は、初めての人には使い方が分からないことが多いので、よく聞いてくる人がいるからです。ところが、よく聞いてみると、彼の場合は、切符を買うお金を援助してください、という意味だったのでした。会話が始まってしまった以上、そこから抜け出すことが出来ず、一瞬どうしようかと思いました。その時、ハタと、まだ手に持っていた財布の中に、みことばのカードが入っていたことに気がきました。



わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければだれひとり神のみもとに来ることはありません。(ヨハネ 14:6)

そのカードを渡すと、その人は、そこに書かれているみことばを真剣に読みながら、「僕も神を信じています」と言いました。しかし、彼の様相から、真の救いに至っているとは思えませんでした。そこで、「では、あなたの信じている神に祈ってください。キリストの救いに導いてくださるように。キリストこそ道であり、真理であり、いのちです。」と言って別れました。

今回のことがきっかけで、以前していたように、小さな路傍伝道者に復帰、外出時にはトラクトをジャケットのポケットに入れ、地下鉄やバスに乗る時には、同乗者のために、道を歩く時は、通り過ぎる人のために祈るようになりました。

●悔い改め

最近、自分の体の心配の方が大きくて、道行く人たちのために祈り考え、みことばを伝える余裕がなかったことを、以上の経験から大いに悔い改めさせられたことは言うまでもありません。けれども、その後、さらに深い悔い改めへと導かれました。

それは、ルカの福音書 6 章のイエス様の『平地の説教』の箇所を何度もじっくり読み返していた時のことでした。あの有名な「**自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい**」(6:31) というみことばが、「**あなたの敵を愛しなさい**」という教えの中で語られ、その具体例のひとつとして教えておられることに、その時気付かされたのです (ルカの福音書 6:27-36 参照)。

その少し前、礼拝のメッセージの最後に語られた牧師のことばが心に残っていました。「私たちは自分の好きな人のためには好んで祈るが、好きではない人のためにはほとんど祈らないのではないだろうか。でも、ほんとうは、私たちは、好きではない人のためにこそ、もっと祈るべきだと思う。私たちがその人たちを神の愛を持って愛せるようになるために、またその人たちに神の祝福が注がれるように。神の愛を受けた者として、キリストの弟子、しもべ、祭司として召された者として、互いに励まし合いつつ、そのように生きて行きませんか。」

以来、私**が**好ましく思っていない人、私**を**好ましく思っていない人のために、主の愛を求めつつ、よく祈るようになりました。すると、不思議です。その人たちへの思いが変えられていくのと同時に、心が喜びで満たされ、神への感謝と賛美も、内側から、ふつつつと溢れ出るようになって来たのです。



以前、信仰生活の二本柱は「悔い改め」と「感謝」と書かせていただいたことがあります。今、改めて、ほんとうにその通りだと思わされています。

今日から3月になりました。寒さの中にも庭のクロッカスが芽を出し、春の到来を待ち望む月、主に砕かれた心を捧げ、主のしもべの姿へと一歩近づかせていただきたいと祈り願っています。

~~~~~

まだまだ寒さが続いています。主が皆様のご健康を守ってくださいますように。主の恵みが、皆様と共にありますように！

Atsuko Kudo



友人とアルスター湖にて